

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	“孤育て”防止対策地域資源有効活用事業
事業名(副) <small>※任意</small>	孤育て防ぐ「おうちパーク」「ミニ交流会」

入力数 主 19 字 副 20 字

実行団体名	特定非営利活動法人子どもサポートふらの
資金分配団体名	認定NPO法人北海道NPOファンド

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input checked="" type="checkbox"/> コロナ禍によって居場所を失った親や子どもが安心して過ごすことのできる場所や人材を提供するための支援
------------------------	---

入力数 49 字

SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021年3月 ～ 2022年2月	事業対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (上富良野町、中富良野町)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	上富良野町、中富良野町、近隣市町村に暮らす子育て中の親、及び子ども	事業対象者人数	200人
------	-------------------	--------	---	---------------------------------------	-----------------------------------	---------	------

I. 団体の社会的役割

(1) 申請団体の目的
当団体は未来を担う子ども達に対して、地域で暮らす人々との豊かな関わりや、人や自然環境などの豊富な地域資源を活用し、豊かな育ちを支えるための事業を行い、豊かで幸せな未来を築く力をもつ子ども達の育成はもちろん、子ども達を通して地域の絆を深めることで、人々が安心・信頼・幸せを感じられるような地域社会の実現に寄与することを目的として設立した。
(2) 申請団体の概要・事業内容等
母親たちが自分達に必要な子育てを支え合う仕組みとして、病児や緊急時に対応する地域住民有志による預り合いをスタート。後に自治体のファミリーサポートセンター事業を受託運営。他に、子育て世代の活発な社会参加を後押しするための保育出張事業や、子育ての悩みを乗り越えられるよう保護者向けの子育てプログラムを提供し、受講した親同士の仲間づくりにも繋がり、孤立した子育てによる困難感の緩和や子育て鬱の防止をはかる。

入力数 (1) 168 字 (2) 200 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、自治体が運営する公的な子育て支援センターや、子育て世帯の居場所が閉じられたり、規模を縮小させる中、子育て中の親子が行き場を失ってしまい、本来子育てに必要な人との関わりが途絶えてしまわざるを得ず、孤独感を感じる母親が急増。また、一日の大部分を室内で過ごすことで、子どもたちの問題行動が増加、その対応に苦慮する母親からの相談も増えた。緊急事態宣言が発動された当時、当法人のファミリー・サポート・センター会員への状況を電話等で聞き取った際も、涙を流しながら孤立と子育ての負担感を口にする母親がとて多かった。特に中富良野町においては、コロナ感染者が町内から出たこともあり、学校や子ども園、子育て支援センターなどが他地域より早期に休校、休園したため、子どもたちの日常の暮らしの場が著しく奪われ、親も仕事を休まざるを得ない状況が長引き、親子ともに、ストレスを抱える期間が長かったことや、自分たちが感染してしまう、させてしまうのではないかと、という不安もストレスを過剰に受ける状態であったと相談者の話から強く感じた。そのため、当法人のファミサポアドバイザー個人宅の庭を開放し、毎回1、2組ずつ親子を招いて、当法人に登録をしているサポーター会員の協力も得ながら、母親の話し相手になったり、また、子育て支援センターには連れていけない学童など年齢の幅が広い兄弟などの子ども達も受け入れ、遊び相手になって、親子双方にとってのストレス解消を促した経緯を受け、今後もコロナ禍における子育ての孤立化を改善すべく、継続的に、地域の人材資源を最大限活用し、臨機応変、かつ柔軟に対応できる民間の力によって、親や幅広く子どもへの居場所提供を行っていくことが必要と考える。

入力数 792 字

III.事業内容

(1)事業の概要
居場所や相談先がなく、孤育て状態となっている親子のストレス緩和のために、孤立を防ぎ、繋がれる「場」を地域の人材と協力しあい、民間として継続提供を行う。具体的には、①当法人のファミサポアドバイザー等個人宅の庭を開放（毎回1-2組ずつ親子や不登校の子どもに場所を開放し、母親の話し相手や、子どもの遊び相手になって、親と子ども双方にとってのストレス解消をはかる）②公的な子育て支援センターがコロナ対策で利用制限等がかかり機能してないため、代替案として「ミニ交流会」を定期的に開催し、参加親子同士の繋がりがりや関係作りをサポートしたり、講師を招き子育て関連の勉強会や講習を行う。

入力数 284 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
当法人のアドバイザーを通さずとも、参加者同士が子育ての相談や話ができる関係となり、子供が成長しても、互いに支えあえること、また、学校に行くことのできない子どもたちが安心していられる居場所を作ることを目指す。

入力数 105 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
活動を通じ、子育て世代の孤立を防ぎ、事業以外の場での交流が主体的に行われる	参加者数（親子組数、親・子それぞれの人数）、相談件数、事後アンケートによる満足度調査	活動参加者の実数カウント、相談者の実数カウント、推移、アンケート	①おうちパーク 72組ほど（週1-2回×4週×12か月） ②ミニ交流会 150組ほど（月2-3回×12か月） アンケート回収 または 相談内容のフォローアップのための事後ヒアリング調査 を100%目標	2022年2月

(4)活動	時期
①おうちパーク 毎回1-2組の親子、及び学童期の子どもを対象に、当法人アドバイザーや地域住民の個人宅の庭を開放し、親の話し相手になったり、子供の遊び相手になることで孤立状態からの解放。（親にとっては大人同士で話ができることや、子供とわずかな時間でも心理的に離れることで心に余裕を持ってもらう。また子供にとっても、外で体を動かすことは五感だけでなく、発育面でもよい刺激となり、親以外の大人と交流する機会となる）	2021年3月～2022年2月/週に1-2回の開催
②ミニ「交流会」 各回5組ほどの乳幼児連れ親子を募り、同世代の子供を持つ親同士がつながる場作り。交流会では、子供の年齢に合わせた簡単な運動や、手遊びなどを取り入れ、子供とのかかわり方を親も学ぶ場を提供をしていき、子供も体を動かすことで、心身の発達を促す。 また交流会以外の場でも、参加者同士、主体的に交流を行う関係を築く。参加者の要望にも応えられるように月に一度程度 地域でスキルを持った人材を講師として招き、子育て関連の勉強会や講習（ヨガ、フォトアート、ベビーマッサージなど）を行う。	2021年3月～2022年2月/月に2-3回の開催

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	①おうちパーク (1人目) コーディネーター1名 (担当予定 広瀬美奈 ・ ファミサポアドバイザー) おうちパークの企画、調整、広報、当日準備&対応、フォローアップ、アンケート・ヒアリングなど
	②ミニ「交流会」 (2人目) コーディネーター1名 (担当予定 太田久美 ・ ファミサポアドバイザー) ミニ交流会の企画、調整、広報、当日準備&対応、フォローアップ、アンケート・ヒアリングなど
	(3、4人目) 上記コーディネーター2名のためのアシスタント2名 (担当予定 瀬下明喜、藤井いづみ)
(2)他団体との連携体制	上富良野町(行政)、中富良野町(行政)、子育て支援センター、森のようちえん「森のたね」、放課後等デイサービスゆうひ
(3)想定されるリスクと管理体制	乳幼児との活動は濃厚接触となりやすく感染症リスクが高いため、対策は国の保育園における感染症対策ガイドラインを実行し、適切に実施されているかの確認と改善を行う。随時、手消毒・体温測定、施設消毒、屋内換気に配慮し、利用者名簿にて追跡連絡等で、感染拡大の防止や情報共有を行う。ケガの対策は、簡易の救急セットを常備し、保育マニュアルの実行、参加保護者とも意見交換し、必要に応じて改善を行う。また、スタッフには、これら現場でのリスク研修を行い、全員を対象とした傷害保険と賠償責任保険を掛ける。

V. 関連する主な実績

(1) 休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
① 本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
② 本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2) 申請事業に関する調査研究、連携の実績				
上富良野町と中富良野町において、ファミリーサポート事業の受託運営を通じ（運営者自身が母親の立場であるため、ほか保護者と同じ目線で会話ができる）、親たちの悩みや要望などの生の声を直接集約できるため、必要に応じ各行政と意見交換をしたり、ヒアリングを受けることが頻繁にある。				

VI. アピールポイント

申請事業に関するアピールポイント（実施体制・実施能力、特徴など）をご記入ください ※400字以内
今年の緊急事態宣言時から、①②両方の事業の必要性を把握し、緊急事態宣言解除後も継続的に行っており、すでに実績と需要があることから、今後も安定的に継続出来るよう、かつ、個別対応の必要性も見えてきたことから、個々への対応をしていくためにも、運営側の人材確保が必要である。また、これにより、雇用の確保や人材育成することで、子育て世代への所得安定にもつながり、地域で支えあう仕組み作りだけでなく、地域における経済循環にもなりえる。